

路面公共交通施設整備に伴う地域変遷の実証的研究

An Empirical Research on the Area Transition caused
by Surface Public Transportation Progress

塚本 直幸 (TSUKAMOTO Naoyuki)

本分野別研究の位置づけ

本研究は、2015～2018 年度実施の同名の科研費（基板研究（C）、課題番号 15K06264、研究代表者 塚本直幸）研究遂行にあたって必要となった、スペインアンダルシア地方 LRT 整備に関わるヒアリングに際してのスペイン語通訳費に充当したものである。ここでは、科研費による研究成果のうち、アンダルシア地方現地調査およびヒアリングの結果を中心にその概要について述べる。

研究目的

スペインでは、これまでに 15 都市、17 地区で LRT (Light Rail Transit) と呼ばれる新たな軌道型の公共交通が開通し、その整備が旺盛である。中でもアンダルシア地方は整備都市の数がスペインで最も多く、事例調査および計画担当者へのヒアリングにより、我が国で LRT 整備を進めるための重要な知見が得られると考え、本研究を実施した。

研究成果の概要

アンダルシア州はスペイン南西部に位置し、州別に見た場合最も多い 5 都市で LRT が開通し、後 1 都市でも近年中の開業が予定されている。同時に、一旦開業したものの、ベレス＝マラガとハエンの 2 都市では現在のところ運行休止となっている。このように、最も多くの都市で LRT 整備が進んだ一方で、運行休止となった都市もあるというアンダルシアの LRT プロジェクトを調査することで、得られる知見は多いと考えた。

2018 年 9 月に、アンダルシア州の 5 都市（セビーリャ、カディス、マラガ、グラナダ、ハエン）を現地調査対象とし、また外見からの調査だけでは明確にならない事項について、セビーリャ都市圏において、バスと LRT の運行業務を担っている TUSSAM (Transportes Urbanos de Sevilla, Sociedad Anónima Municipal) を訪問してヒアリング調査を行った。外見的な現地調査のみでは実態が把握できない整備の財源負担等の課題が明確となった。TUSSAM でのヒアリングによれば、トラムのインフラ整備はアンダルシア州政府が大部分の費用を負担しているとのことである。ハエン市のトラムは比較的早い段階に、財政的問題で休止になったようだが、州政府がインフラ整備に注力したとしても、運営する側のハエン市にはそれだけの財政負担に耐えられなかったということは注目すべきである。同様に運行を休止したベレス＝マラガは、その人口（約 9 万人）の少なさから考えて、同様の運行上の財政的問題があったのではないかと推察される。

研究成果の詳細は以下に詳しい。

塚本直幸、波床正敏：「スペイン・アンダルシア地方の LRT プロジェクト その 2」、大阪産業大学人間環境論集 18、平成 31 年 3 月、pp. 89-107